

令和4年10月1日  
＜JH8CBH 佐々木 朗＞

## 加藤 篤 前JARL胆振日高支部長の逝去を悼んで

また、一人私の大切な仲間というか、師を失いました。JA8DGD 加藤 篤 前JARL胆振日高支部長です。

この夏、ご逝去されたということですが、つい先日このことを知りました。毎日新聞のお悔やみ欄を見て、「知っている人いないかな。」と探すのもなんか切ないですが、知人を見つけることも、ちょこちょこあるような年代になりました。しかし、私はちゃらんぼらんなので、見たり見なかつたりであり、胆振日高地方なので、加藤さんのご逝去には気づきませんでした。

加藤さんとの思い出を綴っていきます。最初の出会いは、一昨年のJARLの北海道地方本部会議でした。その後、縄文特別局をやることになり、正村北海道地方本部長に話を通した上で、関係する石狩後志支部の岡田支部長、胆振日高支部の加藤支部長に打診し、どちらの支部も快く承諾して下さい、この縄文特別局が成り立ったという経緯があります。

その後、ZOOM で何度かお会いし、実施計画を検討しました。縄文遺跡の世界遺産登録が正式に決まったのは、8月1日に開局式を控えた数日前。開局式の準備を進めて下さっている加藤さんと電話で喜び合いました。

8月1日、伊達北黄金遺跡での開局式。加藤さんは、現職時代に行政職にあり、文化財の専門職もされており、関係機関

との連携はバッチリもいいところ。北黄金貝塚情報センターに隣接する一番いいところを開局式に借りていただきました。

私が到着すると、温かい笑顔で迎えて下さいました。ZOOM では何回も会っていましたが、実際にお会いしても、やっぱりすてきな方でした。加藤さんは、伊達クラブの会長も務められており、たくさんのクラブ員の方が駆けつけていて、アンテナの整備やセレモニー会場の準備なども進めていました。

また、テレビ局は新聞も何社か駆けつけて下さっていました。これも加藤さんの配慮です。

伊達での開局式も、ちょっとした内情がありました。北海道の縄文遺跡群は、渡島檜山支部に3つ(関連遺跡も含む)、胆振日高支部に2つ、石狩後志支部に1つあります。この3つの支部を8月1～12月31日で回すわけです。当初は年を越して3月までの運用予定でしたので、この3つの支部を二巡する計画を立てていました。ところが、12月末での運用終了ということになり、もう一度巡回日程を検討することになりました。このほかにもできるだけ支部のイベントや支部のコンテストなどを日程に組み入れ、運用しやすいように調整する必要がありました。当初は、私が開局式を仕切って、函館と青森で記念交信をしようと思っていました。し

かし、胆振日高支部コンテストに近いことなどを考え、総合的に判断すると、胆振日高支部で始めるのが適切であるということになりました。多分加藤さんにとっては、開局式を取り仕切るなど考えていなかったと思います。私の岡田支部長、加藤支部長への頼み方も、「全体的なことは、私がやりますので、各支部で運用する時の管理をお願いします。」ということでした。

こうして胆振日高支部のスタートで、諸行事のからみで、最後まで胆振日高支部でのゴールというちょっと変則のローテーションが決まりました。開局式について、加藤支部長に頼んだところ、「うん、何とかやってみますよ。」と快く返事をして下さいました。これが、場所の確保も、掲示物も、クラブの協力も、報道体制も、私が函館でやるとしたら考えていたであろう体制以上に、すばらしいものを築きあげ



加藤さんの計らいで、開局式はおそろいのユニフォーム

ていました。現場では、にこにこみなさんに振舞っていらっしゃいましたが、その陰で、あちらこちらと密接に連絡を取りながらこのイベントを進めて下さっていた加藤さんの力を、まじまじと感じました。

季節が変わり、秋から冬になった頃、アワードの方は、私が想像していた以上の盛り上がりでした。全体の申請数もそうですが、申請があるかないかと思っていたA賞の申請が一番多くなるなど、嬉しい誤算に満ちたアワードでした。

こんなにアワードが盛り上がるとは思っていませんでしたが、新しい誤算が生まれてきました。縄文遺跡の世界登録記念ですから、当然、その対象地からの運用も計画に入れたわけですが、運用日程などは、各支部に全くお任せでした。ところが、この特別局を追いかけている方から、「全部縄文特別局でアワードを綴りたい。」という願いが聞こえてきました。アワードに特記はしないという約束でしたので、それは貫きましたが、運用面では、たくさん運用した対象地と、そこまではいかたかった対象地がありました。北海道では、伊達市、洞爺湖町がそうでした。

この件について、加藤支部長と連絡を取りました。「場所は提供できるんだけど、オペレータがいなくて。」ということでした。伊達クラブには、たくさんの方がいましたが、マイクを握って運用するのは、どうもお得意ではなさそうです。伊達のJI8ACV形本さんが、ほとんど一人で伊達の運用を担っていました。また、洞爺湖町の運用を依頼した方も、体調が思わ

しくなく、あまり局数が伸びなかったという報告を受けていたということです。

言ったらいいか、余計なお世話になるかと思いましたが、「良かったら私が行きますので、運用を手伝わせていただけますか。」と恐る恐る話してみたところ、加藤さんとしては渡りに船だったようで、その日のうちに運用日程がきまりました。

一日目は加藤さんの会社で、二日目は、洞爺湖町の道の駅での運用となりました。伊達紋別の駅まで、加藤さんに迎えに来ていただきました。既に伊達クラブの皆さんで7メガのアンテナが設営されていました。私がCWそしてちょこっとSSB、形本さんが、SSBで交信局数を伸ばしました。この運用を待ち構えていた人もたくさんいるようで、パイルアップとなりました。私にとって、CWでエリア指定をして運用したのも初めての経験でした。加藤支部長は、「すげえもんだ。」というような表情で、運用を見守って下さいました。

パイルアップも収まった頃に、その日の運用を終えました。みんなでアンテナを撤去し、次の日に備えました。

その後、加藤さんに車に乗せていただいて、近くのお寿司屋さんで、会食いたしました。支部の運営のこと、コンピュータのこと、縄文局のこと、開局式のあれこれ、たくさんのお話をしました。普段あまり、無線には出ていないということですが、支部長として、しっかりと方針を持って、みんなを取りまとめているんだなあと感じ、たくさんのお話を学ぶ貴重な時間となりました。

その後、ホテルまで送ってもらい、私はゆっくりと温泉に入り、また、いつものように持って行ったパソコンでパタパタやっけて、ぐっすり寝ました。

次の日の朝も、加藤さんが迎えに来ていただきました。洞爺湖町の道の駅。ちょうど、中山峠から降りてくるとすぐにある国道に面したところでした。私も、買い物で何回も立ち寄っている所です。2階を特別に開放していただき、自由に使わせてもらうことができました。これも加藤さんの配慮です。

この日もパイルアップ。伊達以上に呼ばれました。CWのパイルは多少なりとも慣れてはいますが、何がなんだか全くわからないようなパイル。エリアしてしてもきつかったぐらいの呼ばれ具合でした。それでも耳を澄まして全く呼ばれなくなるまで、コールを待ちました。

日暮れが早いので、こちらは名残惜しさもある中、クラブの皆さんとアンテナを撤去しました。

最後に加藤さんに、洞爺湖の駅まで送ってもらいました。お互いに「ありがとうございました。」と手を振って別れたのが最後となりました。

加藤さんは、がんと闘っていたそうです。おそらく、この縄文特別局に関わっていた期間も、治療を受けていたのだと思います。私の聞いた情報によると亡くなる数日まえまでとつてもお元気だったということでした。会社経営もされており、また、伊達クラブ会長ということあり、無念さでいっぱいの中、死を迎えなければならなかった心中を察すると、とても心が痛み

ます。そのような中、アマチュア無線としては、最後の仕事になってしまいましたが、縄文特別局の運用に手掛けて、力を発揮していただいたことには心より感謝申し上げますと共に、加藤さんから学

んだ数々の事を、これからの私のエネルギーとして分けてもらいながら、アマチュア無線の発展のために努力を重ねていきたいと思います。